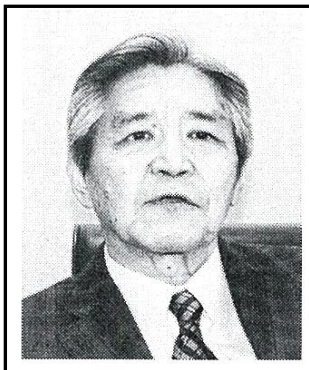
2014　展望

日刊建設工業新聞　2014.1.24　2面

建設コンサルタント

3カ年中に新分野進出を検討



福山コンサルタント
山本　洋一社長

昨年は中長期プランが第2次から第3次に切り替わる節目の年で、2年ぶりの増収増益を達成し、株価も5年前の水準まで回復できた。今年は第3次中長期プランの目標達成に向けた体制整備に本腰を入れる。

具体的には、これまでリスクマネジメント系、ストックマネジメント系で導入していた全社横断の部門事業部制を、主力の交通系にも取り入れる。連携力と組織力を強化するため、2年をめどに地域と部門のマトリクス型体制の基本形を構築し、機動的な組織対応で成長戦略を推し進める。

中長期プランは、最終年度の19年6月期に連結売上高で100億円という目標を設定している。今期はぜひとも売上高を60億円台に乗せたい。

公共投資は今後3年間、ある程度の水準が期待できる。しかし、その後に再び縮減基調に入れば、元に戻るのは難しいだろう。中長期プランの前半3年で、生産体制の強化と並行して公共事業以外の新分野進出を検討する。新規分野は子会社を中心にグループ外の力も加えたチームを編成して進める。公共投資が縮減した場合の受け皿としての役割も持たせ、将来は本体と結合させる。

リニア中央新幹線の整備や東海道新幹線の大改修をにらみ、今後は鉄道部門も強化する。PPPやCMにも震災復興の実績を足掛かりにして取り組んでいきたい。

喫緊の課題は生産力を上回る受注環境への対応だ。新卒・中途採用などでの人員増と併せ、職場環境のあり方を心理的な面、例えば集中力を高めるための色彩構成などから検討している。より働きやすい環境を整え、生産力増強と受注増という好循環につなげたい。